

〈研究ノート〉

中国人雇用者の意識*
—北京、上海、ハルビンの調査結果—

川久保 美智子**

1. はじめに

ここでは筆者が1998年4月から9月まで中国に滞在した間に北京、上海、ハルビンで実施した調査結果を報告する。中国は近年目ざましい発展を続けており経済成長率も世界のトップをいく2桁を維持していた。アジアの経済が危機に遭遇しており韓国やタイ、インドネシアでは貨幣価値も暴落している。日本でも98年6月10日には1ドル140円という7年ぶりの円安に見舞われた¹⁾。その後も円は下がり続けて記録を更新した。この様なアジアの不況の中でも中国の貨幣価値は切り下げされていないし、今後も切り下げのつもりはないとの強気の姿勢を維持している²⁾。そして中国は堅実に成長を続けているのである。どこの都市でも高層ビルの建築ラッシュが続き都市は活気づいている。しかし、よいことばかりではなく問題もある。国有企業の赤字を解消するために20年前から改革が実施され大勢の労働者が下崗（一時帰休）といわれるリストラ政策のために職を失った。たとえば、上海のある国有紡績会社では1万人の従業員を7千人に減らした。それでも収益は回復しなかったので3,700人を一時帰休にした。一時帰休と言っても再雇用の可能性はほとんどない³⁾。以前は国有企業の従業員は解雇など考えられなかった。一生、いや退職後も安泰な生活が保障されていたのである。しかし、現代の目まぐるしく変化している中国の雇用情勢の中で中国の従業員達は

どのような意識を持っているのだろうか。中国への日本企業の進出も盛んであるので中国人がどのような意識を持っているのか把握することも大切である。

2. 調査方法

中国での調査は日本語のアンケートを中国語に中国からの留学生の大学院生に翻訳してもらった。それをさらに中国人民大学社会学部の教授に校正していただき北京で印刷した。1998年4月北京の調査会社に依頼し上海と北京でアンケートを500通配布し440票の有効票が回収された。さらに、5月にハルビンでも100通のアンケートを配布し100票の有効票が回収された。合計600通のアンケートを配布し540票の有効票が回収された(回収率90.00%)。

3. 調査結果

(1) 個人属性

まず最初にサンプルであるが次の表にサンプルの個人属性を示す。

サンプル数は合計540人である。調査は調査会社に依頼したので高い費用が必要でたくさんのアンケートを収集することができなかったが統計的に有意な結果を得るには充分である。平均年齢は35.71歳。男女比率は半々で理想的である。教育程度は大卒以下が47%と以上が53%で約半々ずつ

*キーワード： 中国人、雇用者、意識

**関西学院大学社会学部教授

1) 日本経済新聞、1998年6月11日。

2) 日本経済新聞、1999年8月21日。

3) 日本経済新聞、1999年8月21日。

表1 サンプルの個人属性

サンプル数	540人
平均年齢	35.71才
男女比	50 : 50
教育程度	
大卒以下	47%
大卒以上	53%
出生地25万人以上の都市	80%
出生順位 第1子	28%
既婚者	64%

である。出身地は25万人以上の大都市出身者が80%を占めている。出生順位は第1子が28%、第2子も28%いる。既婚者は64%である。

(2) 仕事の内容

では次に仕事に関する質問をしてみよう。職種は専門家が最も多く32.3%、公務員が18.4%、工員が15.2%、サービス業が11.7%、店員が10.5%である。

現在の会社における勤務年数はどの程度であろうか。平均13年11カ月である。では、現在の会社に今後何年位勤務するつもりだろうか。7年以上という最も長い回答が約3割であるが、わからないという回答も多く4分の1を占めている。転職意志に関する質問「あなたの現在の仕事と同じ条件、内容で給料が20%上がるとしたらあなたはそちらに転職しますか」をしてみたら、その結果転職意志がある者が77.7%で過半数がチャンスがあったら転職したいと思っているのである。その反対に「絶対転職しない」という者は11.5%いる。「たぶん転職しない」と言う者もあわせると22.2%である。条件のよい満足できる会社に勤務している者は絶対転職しないと思うだろうが何か不満がある者はよいチャンスがあれば転職したいと考えるのは当然であろう。しかし、先の勤続意志は7年以上だが転職したいという回答とは矛盾するようであるが、他によい職場がなければ現在の会社にずっと勤務するが、もしよい職場があれば転職したいということであろう。

「あなたはスペシャリストですかそれともジェネラリストですか」という質問に対し、ジェネラ

リストが55.5%でスペシャリストより多い。

「あなたの会社には経営方針がありますか」という質問に対し、「かなりハッキリしている」という回答が最も多く35.5%を占めている。「ややはっきりした方針がある」という回答が13.5%で、また、「非常にハッキリしている」という回答も30%あり合計すると79%になる。中国でも以前より経営方針が労働者に浸透するようになったようである⁴⁾。

「あなたの仕事を自分の思った通りにする自由はどの程度ありますか」という質問に「かなりの自由がある」と31.8%が答え最も多い回答である。その反対に「自由がほとんどない」者も31.1%おり、「全くない」という者も11.6%いるのである。しかし、「完全に自由にできる」という回答が15%ある。したがって、自由がある者となし者とに分かれているのである。この結果は仕事の内容によるのであろう。業績評価は1年に何回くらいあるのだろうか。平均は年2.32回である。1年に2回以上の業績評価があるのである。では、昇給はどの程度あるのだろうか。平均は年0.38回で日本のように毎年1回昇給するという習慣はないようである。

「売上業績などあなたの業績を示す数字は重要ですか」という質問に対し、最も多い回答は「そのような数字はない」というものである。ある場合には「やや重要」が最も多く「非常に重要」という回答は10%である。

「あなたと学歴、経験が同じ様な人が、あなたの仕事をできるようになるにはどのくらい時間が必要だと思いますか」という質問に対し最も多い回答は「2, 3週間」で21.1%である。次に多い回答は「2, 3カ月」が20.7%である。

「あなたの仕事のうち、どのくらい決まりきった仕事がありますか」という質問に対する回答は「61-80%」が最も多く約3割である。次に多いのが「41-60%」で22.3%である。同じ仕事の繰り返しが多く仕事の単調化が進んだのである。中国でもOA化が進行し同じ仕事の繰り返しが増加したのである。

では、最後に病欠の日数はどのくらいであろうか。0日という者が最も多く62.9%と過半数が病

4) 川久保美智子「日中社員の意識比較」多賀出版、1997年、p. 77。

欠を1日も取っていないのである。平均は年間2.71日である。国営企業の時代には病欠で何日休もうと解雇されることはなかったが最近では国有企業の改革で大量に解雇者が続出しているので少々の病気では休んでいられなくなったのである。

以上仕事に関する質問をしたが勤続意志は7年以上勤務したい者が最も多いがよいチャンスがあれば転職したいと考えている者が多い。スペシャリストよりジェネラリストの方が多く、経営方針もかなりはつきりと知れわたっており、業績を示す数字はやや重要だということと、仕事の内容は決まりきったものが61-80%もあり、自分の仕事を他人が覚えるのに2, 3週間しかかからないということである。仕事の自由はある者となない者に分かれている。病欠もほとんどしないで業績評価は年2回あるが昇給は年1回ないという状況である。

(3) 仕事観

では次に仕事観についてみてみよう。「あなたは多くの困難な決定をしなければならない責任のある仕事とそうでない仕事とどちらをしたいですか」という質問に対し「非常に責任のある仕事をしたい」という回答が最も多く44%である。また、「少しは責任のある仕事」をしたいという者は39.1%おり、合計すると83.1%でほとんどである。「全然責任のない仕事をしたい」という者は2.4%だけである。「わからない」という回答も14.5%ある。

「一般的にいつ物事を決定する場合にはあなたは個人による決定と集団による決定のどちらがよいと思いますか」という質問に対して「集団による方がよい」という回答が大多数を占め61.3%である。「個人の決定の方がよい」と言う者も21.8%いる。「わからない」という回答が16.9%である。中国では意思決定は管理職がするので社員達はそれに対して不満を持っているものと思われる。

「非常に独創的な考えは、一人で働いている人によって作られると思いますかそれとも集団で働いている人によって作られると思いますか」とい

う質問に対し「1人で働いている場合が多い」という回答が35.5%である。「分からない」という回答が15.8%である。その反対に「集団の場合が多い」という回答は48.7%でほぼ半数である。

「あなたの会社で昇進するには仲間とうまくやっていく事が重要だと思いますか、それとも自己主張することが重要だと思いますか」という質問に対して「仲間とうまくやる事が非常に重要だ」という回答が25.1%で、「やや重要」の18.2%も合計すると43.3%である。しかし、最も多い回答は「自己主張が重要だ」というもので46.9%である。中国人もアメリカ人のように自己主張が強い国民であるが、アメリカ人は会社での自己主張は少ないのに対し中国人の場合には会社内でも強いのである⁵⁾。自己主張しないでおとなしくしていたら競争に負けてしまうのだろうか。人口が多い国であるからよほど強く自己主張しないと忘れ取り残されてしまうのであろう。

「もしあなたの会社の業績が非常に悪化したときには、社員はすぐに解雇されると思いますか」という質問に対し「遅かれ早かれ解雇されるだろう」という回答が61.4%で最も多い。「解雇されない」という回答は38.7%である。中国の失業者問題を反映して今までは解雇されないと安心してきたが中国人もいつ解雇されるか分からなくなってきたのである。

以上が仕事観であるが仕事は責任のある仕事をしたし決定は集団でした方がよいと思ひ独創的な考えも集団で働いている方がうまると考えている。会社で昇進するには自己主張することが重要だと考える者が多くいつ解雇されるか分からないと思う者が多い。以前はそう簡単には解雇されないと考えていたのが現実には大量解雇が実施され社員達もいつ解雇されるかわからないと思うようになったのである。

(4) 上司との関係

では次に上司との関係はどうであろうか。次の7項目に関して質問してみた。まず最初に、「あなたの上司を尊敬していますか」という質問に対し「まあまあ尊敬している」という回答が最も多く48.1%である。「非常に尊敬している」者は

5) 川久保美智子「アメリカ人エリートの意識」関西学院大学社会学部紀要、1998年10月、第81号、pp. 185-194.

32.7%である。「全然尊敬しない」という者はほとんどいない。わからないと言う者は13%いる。

では次に「上司に対して忠誠心を持っていますか」という質問に対して「おおいに持っている」という回答が最も多く52.2%である。次に多いのは「少し持っている」で27.7%で合計すると79.9%である。「どちらでもない」という者は18.4%いる。「全然忠誠心を持っていない」という回答はほとんどない。

「あなたはあなたの上司に面と向かって反対できますか」という質問に対し「反対しない方がよい」という回答が35%である。「かなりためらう」者は29.4%で、「少しためらう」者が9.4%で合計すると73.8%でほとんどの者が反対しない方がよいと思っているのであるが、全くためらわないで反対する者も6.0%いる。

「もし仮にあなたが一人で1日働いてだれもあなたがどのくらい仕事をしたかわからないとしたら、どの程度一生懸命働きますか」という質問に対し「非常によく働く」という回答が最も多く64.7%である。次が「一生懸命働く」という回答で16.1%である。

合計すると80.8%でほとんどの者は働くようであるが、「少し働く」という者も10.2%いる。「全く働かない」と言う者はほとんどいなくて1.7%である。

「あなたは上司の家を訪問したことがありますか」という質問には「1度もない」という回答が最も多く82.7%である。職場の上司との関係は仕事上に限定されていて家庭を訪問するほどの親しい関係はないようである。

「あなたの上司はあなたの仕事ぶりを正確に評価できると思いますか」という質問に対し「かなり正確」という回答が46.3%で最も多く、「まあまあ正確」という回答が33.2%である。「非常に正確」という回答も12.7%ある。「あまり正確でない」と「全く正確でない」を合計しても7.8%である。上司の評価はかなり正確だと思うようになってきたのは多分評価の方法が明確になってきたからであろう。

「あなたの仕事に影響を与える個人的な問題が起きた場合に上司に相談に行きますか」という質問に対し「非常に重要な問題なら相談する」とい

う回答が最も多く41.3%である。次に多いのが「緊急なら相談する」という者が23.3%で、3番目が「すぐ相談する」者が21.4%である。「相談しない」者は5.8%である。したがって、相談する者がほとんどである。

以上、上司との関係を見てきたが、中国人は上司を尊敬し、忠誠心は大いに持っている者が多い。上司には反対しない方がよくかなりためらう者が多い。また、上司がいなくても非常によく働く者が多く、上司の評価はかなり正確だと感じている。しかし、上司宅を訪問する者はほとんどいないが、上司に個人的な問題を相談する者がほとんどであり、相談しない者はほとんどいない。

(5) 同僚との人間関係

では次に同僚との人間関係はどうであろうか。次の6項目の質問をした。まず最初に、「あなたの仕事に影響を与える個人的な問題が起きた場合に同僚に相談に行きますか」という質問に対し「非常に重要なら相談する」という者が最も多く49.3%である。次は「緊急なら」が16.1%、3番目が「すぐ相談する」が15.4%で合計すると80.8%である。「相談しない」という者は8.4%である。上司に相談するのと同じように同僚にも相談するようである。

「もし仮にあなたの上司が1週間職場にいない場合に、あなたが怠けたらあなたの同僚はあなたをたしなめたり注意したりしますか」という質問に対し「注意するかもしれない」という回答が最も多く28.8%である。次は「たぶん注意する」が26.0%で3番目は「たぶんしない」が18.1%である。「注意する」合計が65.5%で「注意しない」の合計が34.5%で注意する者が多い。「必ず注意する」と言う回答は10.7%である。

「あなたの仕事をうまくやるために、同じ会社の人々との個人的なつながりはどの程度重要ですか」という質問に対し「きわめて重要」という回答が最も多く55.9%を占めている。次に多いのは「非常に重要」で37.5%である。合計すると93.4%でほとんどの者は重要だと考えているようである。中国では今でもコネが重要な社会であるということがわかる。

「あなたは同僚とお酒を飲みにどの程度行きま

すか」という質問に対し「年2, 3度」という回答が最も多く41.6%を占める。次に多いのは「月に1度」が9.6%である。「月2, 3度」という者も7.9%いる。同僚とは「全然飲まない」という者も37.3%いる。

「友人は何人くらいいますか」という質問に対し平均は8.31人である。そのうち「親友は何人いますか」と聞くと平均2.29人である。

以上が同僚との関係であるが、同僚にも個人的な問題を相談し、もし同僚が仕事を怠けたら注意するかも知れないということと、個人的なつながりは重要であると考えている者が多い。しかし、同僚とは年2, 3度お酒を飲みに行く程度の付き合いである。友人の数は8, 9人でそのうち親友は2, 3人である。

(6) 満足感

では次に社員達の満足感について仕事、家庭、友人の3項目と幸福感、仕事と家庭が両立しているかどうかの5つの質問してみた。満足していれば幸福に感じ、家庭と仕事の間に問題がなければ満足感も高いだろう。最初に仕事にはどの程度満足しているのだろうか。「普通」という回答が最も多く45.6%を占めている。次は「やや満足」で34.8%である。合計では「不満」の12.9%より「満足」の41.6%の方が多くなっている。

家庭にはどの程度満足しているのだろうか。「やや満足」しているという回答が最も多く50.7%である。合計すると74.0%が満足しているのである。「普通」と言う回答も20.3%ある。

友人にはどの程度満足しているのだろうか。「やや満足」という回答が最も多く50.9%である。合計すると84.9%が満足している。「普通」も34%いる。「不満」はほとんどいない。

「一般的にあってあなたは最近どのように感じていますか」という質問に対する回答は「どちらでもない」という回答が半数近くを占めている。「非常に幸福」という回答はほとんどないが「幸福」という回答が34%ある。「幸福ではない」と「非常に不幸」という回答は合計6.6%である。

「あなたは過去2, 3カ月の間に仕事と家庭の問題を感じたことがありましたか」という質問に対し「全然感じなかった」という回答が28.0%

で最も多く、次が「少し感じた」の27.1%である。「大変感じた」という回答は12.5%で「いつも感じた」者は5.7%で合計すると45.3%が何らかの問題を感じているようである。中国では女性も男性と同じように働いているので家事との両立が大変である。男性も家事を分担しているがそれでもまったく問題がなくなるわけではないようである。

以上満足感の結果を見てみたが家庭、友人にはやや満足している者が多いが、仕事には普通という回答が多い。幸福感はどちらでもないという者が最も多い。仕事と家庭の間の問題は感じている者が多い。

(7) 人生観

最後に人生観についてであるが次の11項目の質問をした。最初の質問は「人生において手に入れたと思う物事をどの程度手に入れていると思いますか」というものである。「かなり手に入れている」という回答が最も多く55.5%で過半数を占めている。高度経済発展中の中国では収入も増加し手に入れたい物も以前と比較したら手に入りやすくなっているのである。商品も市場にあふれておりお金さえ出せばほとんど何でも手に入るのである。しかし、「ほとんど手に入れている」という回答は少く4.1%だけである。人間の欲望は限界がないから次から次にと欲しい物が出てくるからもうこれ以上欲しい物はないということはないであろう。一方、「あまり手に入れていない」の28%と「全然手に入れていない」の3.9%を合計すると31.9%になる。まだまだ手に入れたい物がたくさんあるようである。

次に、「あなたは以下の様な考えについてどう思いますか」という質問を10項目にわたり聞いてみた。

- 1) 「友人を持つことは重要である」という項目には賛成が48%で最も多く、次が「大変賛成」の42.9%で合計すると90.9%が賛成である。「どちらでもない」という回答も8.3%ある。
- 2) 「協力作業より単独の仕事を好む」という項目には「賛成」が41.1%と「大変賛成」が21.1%で合計すると62.2%が賛成している。個人主義の中国人であるので協力作業より単独作業

を好む者が多い。しかし、「どちらでもない」という者も30%いるのである。「反対」は6.8%である。

- 3) 「友人と同じ経験をすることが重要である」という項目に関しては「どちらでもない」という回答が最も多く過半数の55.2%を占めている。次に多い回答は「賛成」の21.1%で、「大変賛成」の5.7%と合計すると26.8%である。この項目は他の項目と比較して賛成が少ない。「反対」は14.5%で「大変反対」の3.4%を合計すると17.9%が反対を表明している。
- 4) 「暖かい人間関係より1人でいたい」という考えには「どちらでもない」という回答が最も多く41.6%である。「反対」は24.7%で「大変反対」の7.9%を合計すると32.6%が反対である。「賛成」は25.8%で反対より少ないのである。
- 5) 「友人とつきあうより読書や映画を好む」という項目に関しては「どちらでもない」という回答が最も多く42.3%である。「賛成」は28.2%で「反対」は29.5%で2極に分かれている。
- 6) 「私を嫌っている人がいる場所に行くのを気にしない」という項目に関しては「どちらでもない」という回答が最も多く37.6%を占めている。「賛成」の合計は50.8%で「反対」は11.7%である。
- 7) 「よく理解できない場合には質問するより黙っている」という項目に関しては「黙っている」という者は41.9%で一番多く、「質問する」という者の22.4%より多いのは意外である。また、「どちらでもない」という回答が35.7%である。
- 8) 「人を人前で批判するし他人にもそうしてもらいたい」という項目には「反対」を表明する方が多く36.1%を占めている。「どちらでもない」という回答が次に多く35.3%である。「賛成」は28.7%である。
- 9) 「初めての場所に行くときには友人と一緒にいきたい」という項目には「どちらでもない」という回答が最も多く36.2%を占めている。「賛成」の合計は49.3%で「反対」の合計14.4%より多い。

- 10) 「他人に気に入られなくても信じていることを話す」という項目には「どちらでもない」という回答が最も多く43.3%である。残りは「賛成」29.5%と「反対」27.2%で約半々である。

以上人生観に関して11項目の結果を検討したが、人生において手に入れたいと思っている物はかなり手に入れているようであるがまだまだ欲しい物はあるようである。友人を持つことは重要であり、共同作業より単独作業を好み、他人を人前で批判することには反対である。友人と同じ経験をすること、暖かい人間関係より1人でいたい、友人とつきあうより映画や読書を好む、嫌われている人がいる場所に行くことを気にしない、初めての場所には友人と行きたい、わからないことは質問するより黙っている、他人に気に入られなくても信じていることを話すという項目に関してはどちらでもないという回答が最も多い。

以上中国人雇用者の意識の調査結果を検討してきたが仕事観に関しては解雇はいつされるかわからないという考えは中国人でも多く、また、仲間とうまくやっていく事は重要という考えよりも自己主張するのが重要という考えが多い。しかし、仕事をする上で個人的なつながりは不可欠だと考えているのである。上司との人間関係は上司に対する忠誠心は強く、上司がいなくても非常によく働き、評価はかなり正確だと感じているが、上司の家を訪問する回数は少ない。個人的な問題は相談する者が多く上司をまあまあ尊敬するというものである。

同僚との関係は会社でうまくやるためには個人的なつながりはきわめて重要であり、個人的な問題を相談する者が多い。満足感も家庭、友人にはやや満足しているが、仕事と家庭との間の問題は感じている者が多い。人生観は手に入れたいものはかなり手に入れているが対人関係に関してはどちらでもないという回答が多い。

Chinese Employee Attitudes

—The Results of Beijing, Shanghai, and Harbin Research—

ABSTRACT

This paper reports the results of questionnaire survey of Chinese employee attitudes. The survey was conducted in the Chinese cities of Beijing, Shanghai, and Harbin in 1998. A total of 600 questionnaires were distributed and 540 valid questionnaires were collected (response rate is 90.0%). The average age of the sample is 35.18 years old and sixty percent is married. The sex ratio is 50 : 50 and half of them are university graduates. Their occupations are specialist, government official, factory worker, service worker, and sales clerk.

Questions were asked concerning their value system, beliefs, thoughts, satisfaction, attitudes towards their company and its policy, relationships between the supervisor and co-workers, etc..

It was found that Chinese employees intend to work at the same company for more than 7 years, but at the same time if they were offered a better position, they are willing to change their jobs. They respect their supervisors and have loyalty to them, but they seldom visit their supervisor's home. When they have private problems concerning their jobs, they consult supervisors. They think that group decision making is better than individual one, and creative ideas come from group working rather than individual working. They expect layoffs when economic conditions become bad. They are satisfied with their family and friends, but they feel problems between their job and family life.

Key Words: Chinese, employee, attitudes